（学校番号218）　令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【内谷中学校】

① 目　標・策

	目　標		策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において3pt向上させる。（R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「知識・技能」において全国平均を上回る。）	⇒	TPC端末で、「ドリルパーク」「スタディ・サプリ」を積極的に活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。スタディ・サプリを用いた長期休業中の課題を設定する。定期テスト前の朝の自主学習の時間を活用し、重点的に補習を行う。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。（R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。）	⇒	各教科の授業において、「PowerPoint」等のMicrosoftofficeアプリや「ムーブノート」等を用いながら主体的・対話的で深い学びを多角的なものの見方や課題解決に向けて協力しあう態度が身につくよう指導する。特別支援学級においては具体物を積極的に用いて視覚的イメージを持つことで、自ら考え、表現しやすくなる環境づくりを推進する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「家庭学習」の質問項目において、肯定的な回答の割合を70%以上にする。 また、市学習状況調査「授業における主体性」の質問項目において、肯定的な回答の割合を市平均よりも上回る。	⇒	各教科では学習カードを積極的に取り入れる。単元の学習計画を提示し、授業終了後や単元終了後に自分の理解度や改善点などについて振り返りを行わせる。また生活記録ノートと学習計画表を合体させた学習計画表をテスト期間中に全学年で導入する。生徒の学習状況を把握し、必要な生徒に定期的にアドバイスやフォローアップを行う。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

全国学力・学習状況調査結果	
知識・技能	国語、数学の両教科とも、R5年度の結果は全国の結果を上回っている。しかし、目標としていたR4年度の自校結果と単純に比較するのは、問題の内容や全国の平均正答率の変化があり、困難なため、③の目標を修正する。国語では、全国の平均正答率が上がっている中で、自校結果は全国の結果を4pt越えることができた。数学では、全国の平均正答率が下がっている中で、自校結果は全国の結果を5pt越えることができた。英語では、評価の観点で全国の平均正答率を大きく上回った。
思考・判断・表現	国語では、R4年度の平均正答率を2pt越えることができた。全国の平均正答率が上がっている中で、自校結果は全国の結果を5pt越えることができた。数学では、R4年度の平均正答率を2pt越えることができた。全国の平均正答率が上がっている中で、自校結果は全国の結果を7pt越えることができた。「Dデータの活用」の平均正答率だけが全国より下回ったが、この問題は無回答率の高さが目立った。英語では、評価の観点で全国の平均正答率を大きく上回った。
主体的に学習に取り組む態度	生徒質問紙の「（16）家で自分で計画を立てて勉強していますか（学校の授業の予習や復習を含む）」では、肯定的な回答の割合が約60%となり、全国の肯定的な回答の割合を越えている。また、80%以上の生徒が学習塾の先生や家庭教師の先生に教えてもらっていると回答し、全国の割合を大きく上回っている。自分で計画を立て、学習しながらも塾や家庭教師に教えてもらうことで、学習の振り返りや予習ができている。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目　標		策
知識・技能	R4年度とR5年度では問題の内容が変わり、比較が困難なため、「R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「知識・技能」において全国平均を上回る。」に修正する。	⇒	変更なし
思考・判断・表現	R4年度とR5年度では問題の内容が変わり、比較が困難なため、「R5年度全国学力・学習状況調査の国語・数学・英語の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。」に修正する。	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

中1	・数学で「知識・技能」平均正答率は、市平均正答率を＋0．9pt上回った。 ・国語、数学の2科目で「思考・判断・表現」の平均正答率は、市平均正答率をそれぞれ1．9pt上回った。 ・国語「話すこと・書くこと」「書くこと」、社会「世界の様々な地域/歴史的分野」、数学「図形」の項目で昨年度の1学年よりも高い結果が得られた。
中2	・国語、社会、数学の3科目で「知識・技能」平均正答率は、市平均正答率を上回った。特に、社会の「知識・技能」の平均正答率は、市平均正答率と比較し、＋3．4ptとなった。国語、社会、数学の3科目で「思考・判断・表現」の平均正答率は、市平均正答率を上回った。特に、数学の「知識・技能」の平均正答率は、市平均正答率と比較し、＋3．2ptとなった。 ・国語全項目、数学「関数」「データ活用」、理科「生命を柱とする領域」の項目で昨年度の2学年よりも高い結果が得られた。
中3	・生活習慣に関する調査のみ行った。「授業における主体性」の項目について、どの項目も市の肯定的な回答を上回った。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	「R5年度全国学力・学習状況調査」における国語、数学、英語の「知識・技能」において、全国平均をそれぞれ3．8pt、4．9pt、13．6pt上回ることができた。長期休業中の課題として「スタディサプリ」などのドリルを配信し、基礎的な問題の反復学習を促すことができた。	A
思考・判断・表現	「R5年度全国学力・学習状況調査」における国語、数学、英語の「思考・判断・表現」において、全国平均をそれぞれ4．8pt、7．3pt、9．4pt上回ることができた。授業でパワーポイントやムーブノートなどを活用し、問題解決に向かう授業を実施した教員は全教員の約80%だった。また、特別支援学級の授業では体験学習を通し、実感の伴う学びの時間が増えた。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「家庭学習」の質問項目において、肯定的な回答の割合は約60%だった。 また、市学習状況調査「授業における主体性」の質問項目において、肯定的な回答の割合は3学年で5項目、1学年で4項目上回った。学習カード、新たな形式でのテスト計画表を活用し、学びを振り返る機会を設けることができた。	B

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	市学習状況調査における家庭での学習時間や学習塾へ通う生徒の割合を図る質問に対する肯定的な回答はどの学年も市の平均よりも上回ったため、学習の時間は確保されている生徒が多いことがわかるが、調査の結果から学年が下がるにつれ、学習内容の定着が図られていないことがわかった。各教室のICT端末の台数整備をし、スタディサプリやドリルパークを活用し反復学習による基礎力の定着を図る環境を整えていく必要がある。
思考・判断・表現	市平均正答率を上回っていない教科もあるので、思考力・判断力・表現力を高めるため、答えにたどり着くまでの過程を説明したり答えを教え合ったりする時間を増やすことや、単元のまとめで学習の成果を発表する機会を設けるなど、学習したことを伝える時間を各教科で確保していく。
主体的に学習に取り組む態度	市学習状況調査における「将来の夢や目標をもっているか」「家で自分で計画を立てて、勉強しているか」「各教科の勉強は好きですか」という質問に対する肯定的な回答の割合が市の平均よりも低かった。主体的に学習に取り組む態度を育成するために、学習カードやテスト計画表を改善し、見通しをもった学習を生徒自身が行えるようにする。また、学習した内容が実生活の中で実感できたり、応用できたりすることにふれながら、学習の楽しさ、やりがいをもたせるように指導の工夫改善を図る。

※評　価
A　8割以上（達成）　　B　6割以上（概ね達成）　　C　6割未満（あと一歩）